まちの話題

祖先の故郷と祖国の架け橋に
平成23年度町海外移住者子弟研修生修了式

平成23年度の海外移住者子弟研修生受入事業の修了式が、12月5日に町中央公民館で開催されました。半年に及ぶ研修を終えたのは、与那嶺カオリダニエリさん（ブラジル）、呉屋ギドアリエルさん（アルゼンチン）、小橋川マリアテレサさん（ペルー）の3名。沖縄の文化や社会について学んだ3名は、三線の演奏や琉球舞踊などを披露し、研修の成果を出席した関係者などに報告しました。

研修を振り返り、与那嶺さんは「沖縄や移民の歴史を習い、感動した。沖縄に来て、『いちゃりばちょーでー』の意味が分かって、その意味に誇りを感じました。」と感想を述べました。呉屋さんは「沖縄に来て、自分の中のウチナーンチュとしてのアイデンティティを見つけることができた。」と語り、小橋川さんは、研修で関わったすべての人に対して「ありがとう」を伝えました。式の最後には、研修生を受け入れた家族などとともにカチャーシーを踊り、半年の研修をねぎらいました。

「西原町史」出版祝賀会で、完成を喜び合う

西原町史第1巻「通史編」と第8巻・資料編7「西原の言語」の発行を記念した出版祝賀会が12月9日に町中央公民館で開催されました。

「西原の言語」は、西原の方言を調査し、記録保存したもので、平成22年5月に出版しました。また「通史編」は、これまで調査してきた西原の歴史や文化を総合的に記述した集大成となるもので、「通史編」の出版により、昭和52年に西原村誌編集委員会（当時）発足からの町史編纂事業が完了したことになります。

2冊の出版を受けて上間明町長は「住民が地域を知り、地域を愛するため、町史は本町の誇り。」と喜びを語りました。祝賀会には多くの関係者が出席し、西原町史の完成を祝いました。

地域の歴史が1冊に。字誌「小波津誌」が完成

小波津自治会が、地域に伝わる産業や伝統、生活習慣、祭事などの歴史をまとめた字誌「小波津誌」を発行しました。「小波津誌」の編集は平成19年10月に開始し、延べ100回以上の編集委員会（小波津秀市委員長）を開くなどして、住民手づくりの字誌が完成しました。

糸数善昭会長代行は「各委員が分担して執筆し、議論を重ねてきた。取りまとめに苦労したが、みなさんに見ていただき、地域に愛着を持ってもらいたい。」と抱負を述べました。発行の報告を受けた上間明町長は「西原町のリーディングケースとして、他の地域の参考になる。」と喜びました。

「小波津誌」は町立図書館で閲覧できるほか、在庫があれば購入可能。詳しくは小波津自治会(945-8942)にお問い合わせください。

これからの介護について考えよう「介護の日」イベントを開催

介護従事者や要介護者の声を聞き、介護の理解を深めることを目的に、「介護の日」イベントが12月6日に町中央公民館で開催されました。

イベントには介護に関心を持つ多くの学生や町民が参加しました。実際に介護が必要な「当事者」と、その介護に取り組んでいる「家族」、町包括支援センターの専門家などが登壇したゆんたく会では、「これからの介護について～当事者やご家族の視点で～」をテーマに互いの体験を語り合いました。家族の介護に取り組んでいる方からは、一人で徘徊して行方が分からなくなり、地域ぐるみで捜索したことや、毎日夜中に起こされるなどの体験が語られ、参加者は厳しい介護の現場を実感しました。登壇者の一人は「介護サービスを利用して、生き生きするようになった。施設の職員の励ましが嬉しい。」と、一人で抱え込まないよう参加者にアドバイスしました。

マリンタウン、南部地域のアクセスが便利に
町道小那覇マリンタウン線開通式

国道329号、県道38号線の幹線道路とマリンタウン地域を結ぶ、町道小那覇マリンタウン線の開通を記念し、12月2日に開通式典が開催されました。式典で上間町長は「マリンタウン地域の利便性が増し、地域の活性化が図られることを期待する。」と開通を喜びました。町道小那覇マリンタウン線は総事業費約21億円（国費8割・町2割負担）、小那覇交差点から海に向かって延びる、延長960ｍの道路です。自転車通行道が整備されており、通勤・通学路の確保や東崎工業団地の企業等の流通改善などが図られています。

また小那覇自治会との協議で、新川嘉徳氏（小那覇出身）が作詞作曲した「梅の香り」にちなんで、街路樹に158本の梅の木が植えられることになっています。小那覇自治会の新川勝夫会長は、「将来は『梅の木通り』と呼ばれるように、地域で大切に育てたい。」と話しました。

西原東小・幼稚園が創立30周年盛大に式典を開催

西原東小学校・幼稚園が創立から30年を迎え、12月18日に西原東小で創立30周年記念式典を開催しました。同校は昭和56年の開校以来、多くの卒業生を輩出し、平成13年にはＮＨＫ全国音楽コンクールで金賞を受賞するなどの実績を残してきました。

記念式典には多くの卒業生や関係者が出席し、思い出話に花を咲かせるなどして節目を祝いました。また、歴代校長やＰＴＡ会長、学校支援ボランティアを務めた12名に感謝状が送られ、30周年記念事業として、教室や会議室のクーラー設置や、絵本・デジタルカメラなどの購入が行われました。

“町民会議”で、まちづくりの基本方針を町長へ提案

町民・議会・行政が協働でまちづくりを進めるため策定に向けて取り組んでいる「西原町まちづくり基本条例」について話し合う「同条例を考える町民会議」が、12月19日に第11回の会議を開き、要綱案を上間明町長へ提出しました。

提出を受けて上間町長は「地方分権が進展する中、画期的な取り組み。まちづくりに対する熱い思いを強く感じた。西原町の未来を拓くため、町民と協働で作りあげた要綱案の4月施行に向けて取り組みたい。」と語りました。

町民会議は、8月10日の第1回から11回の会議を重ね、これからのまちづくりの指針となる条例の内容を話し合いました。会議に参加した委員は「色々な分野の意見を聞くことで勉強になった」「話し合った要綱案を活かして、住みよいまちになるよう活動していきたい」と感想を語り合いました。

魅力ある学校づくりの取り組みを報告

「魅力ある学校づくり調査研究事業」（国立教育政策研究所生徒指導センター指定事業）の実践報告会が、12月21日に西原東中学校で開催され、町内外の中学校教員や教育行政、生徒の保護者など多くの関係者が訪れました。同事業は平成22･23年度に西原東中学校区（西原東中・西原小・西原東小）の各学校が連携して実施したもの。「わったー自慢の学校・地域をめざして～小中連携・授業力向上・行事の充実・地域連携を通して～」をテーマに掲げ、分かる授業づくりや生徒会活動、部活動などの充実が取り組まれました。

西原東中で行われた公開授業では、各学級で工夫を凝らした「分かる授業」づくりの実践が披露されました。3年1組では、1945年から98年までに起きた核爆発を光の点滅で表現した動画を通じ、東西冷戦の歴史や核開発の弊害などを学びました。授業後に行われた全体会では、2年間の取り組みが紹介され、参加者は先進的な「魅力ある学校づくり」を学びました。